

## 経営学部 60年の軌跡

1952年	経営学部の設置認可申請書を文部省（現…文部科学省）へ提出
1953年	生田校舎に私立大学初となる経営学部を創設 初代学部長に佐々木吉郎教授が就任 経営学部新設記念祭を生田校舎にて開催
1956年	経営学部3・4年生が神田地区に移転
1959年	大学院経営学研究科を開設
1960年	経営学部1・2年生が和泉校舎へ移転
1963年	経営学部創立10周年記念講演会・記念式典・祝賀会を開催
1965年	私立大学で初の経営学博士号を授与
1973年	経営学部創立20周年記念祝賀会を開催
1983年	経営学部創立30周年記念式典を明治高等学校育館で挙行



駿河台旧8号館。経営学部も一時使用していた(1955年)



経営学部校舎(駿河台旧5号館)



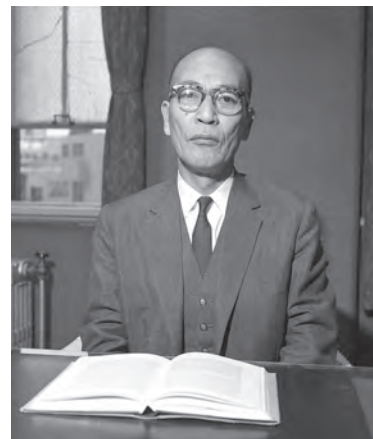
経営学部「生誕の地」生田校舎(1950年)

# 経営学部の歴史・年表

明治大学経営学部は1953年4月1日が誕生日である。国立大学では先例があったものの、私立大学としては、日本初の経営学部であった。

創設者は、明治大学総長を務めた佐々木吉郎。佐々木は商学部教授として経営経済学の講義を長年受け持ち、それは「佐々木経営学」とも称されていた。戦後の経営学の隆盛を受け、その佐々木が中心となって、「商学」と区別される「経営学」専門の学部を創設したのである。

佐々木は人格的にも「吉ちゃん」と親しまれ、駿河台キャンパスの学生会館とリパティタワーの間、山の上ホテルに続く緩い坂は「吉郎坂」と命名されている。坂下の脇には、「吉郎坂」と書かれた石標を見ることもできる。1950年代のアメリカ経営学の勃興により、経営学は大いなる進歩を遂げる。著名な



経営学部の「祖」佐々木吉郎



2014年

現在に至る

2013年

経営学部創設60周年記念式典・記念行事をアカデミーホールで挙行

2002年

経営学科1学科制から、経営・会計・公共経営の3学科制に移行  
経営学部50年誌『継承と飛翔』を発行

2000年

山田雄一教授、明治大学長に就任

1998年

経営学部事務室が新設のリバティタワー5階に移転

1997年

「経営総合研究センター」を設置（初代所長に山田雄一教授）

1995年

経営管理・経営会計・経営文化の3コース制を導入  
96年度入試からの「飛び級」による大学院進学制度を承認

1990年

受験者が2万2451名となり、駿台予備校を試験場に変更

1987年

大学院経営学研究科、社会人入学制度を導入



創立10周年記念式典(1963年)

“教育は今日に役立つ人間を作るのではない。  
明日に役立つ人間を作るのだ。”

佐々木 吉郎



吉郎坂と、坂下の脇にある石標

経営学者ドラッカーの著書などが刊行され、経営学ブームが起こり、企業経営の世界でも「ビジネス」という言葉が頻繁に使われるようになった。

こうした中、経営学部では経営に必須な会計学関係の科目の設置や、公認会計士・税理士・中小企業診断士などの養成講座の開講、国際人であるための英語教育の重視など、充実したカリキュラムを展開。志願者は初期の約2000人から、1990年のピーク時には2万人を突破した。

その後、「失われた10年」と形容される世紀転換期を迎え、経営環境も激変の時代を迎える中、1995年の3コース制を経て経営学部も2002年に転換期を迎えた。従来の経営学科1学科制から、経営・会計・公共経営の3学科制に移行したのである。

こうしてさまざまな変遷や改革を経て、経営学部は60年の節目を迎えた。実践的能力を備え、かつ見識のあるビジネスマンを生み出すという不変のミッションを追求しながら、さらなる一步を踏み出そうとしている。